

昭和四十九年十一月七日～九日

水野忠央旧蔵本 展示目録

宮内庁書陵部



議波

越前國小山下内里坐御堂

市

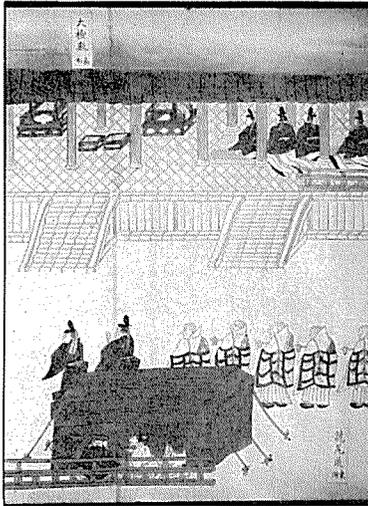
右坐御者春日仲八辨材所
道去納言 恒通 寺文 曆年 上 以 以
之 去 之 用 死 以 以 用 脚 踏 事
恒例 出 年 權 任 官 割 亦 當 亦
死 道 材 所 是 然 間 以 日 板 偏 以
皆 領 入 仁 讓 以 計 三 之 地 事 事
陰 文 上 事 事 事 事 事 事 事 事

錯 位 可 以 今 以 不 可 病 患 亦 亦
矣 此 地 不 宜 納 言 亦 亦 亦 亦 亦 亦
皆 領 入 仁 讓 以 計 三 之 地 事 事
但 文 事 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
是 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

和長二年四月 日

赤議徒任雅道為議波

大御所相所下



一一の2 年中行事絵巻 御齋会部分

<p>古佛演世緣歷無窮不可以朋知而寒數也近故譚賢劫有十 如來覺乎釋迦但紀七佛按長阿含經云七佛特進方放光滅 暗冥各坐樹下於中成正覺又變殊聖利為七佛祖師金華 善慧天士登松山頂行道感七佛引前維摩接後今之撰述斷 自七佛而下<small>一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百</small></p> <p>毗婆尸佛<small>九百八十八劫</small>獨曰身從無相中發生猶如幻出諸 形象幻人心識本來無罪福皆空無所住長阿含經云久壽八 萬歲時此佛出世種種利利姓拘若父蒙頭頂樂顯婆羅嚴 頭婆提城坐波波羅樹下說法三會度人三十四萬八千神足 二一名鬱荼一名提舍侍者無憂子方膺<small>一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百</small></p> <p>尸棄佛<small>五百四十九劫</small>獨曰起諸苦法本具造諸惡業亦足幻 身如聚沫心如風幻出無根無實性長阿含經云人壽七萬歲 時此佛出世種種利利姓拘若父明相受光輝居光明照坐分</p>	<p>十三祖迦毗摩羅尊者 十四祖龍樹尊者 十五祖迦那提婆尊者 十六祖羅睺羅尊者 十七祖僧伽提婆尊者 十八祖伽那含多尊者 十九祖鳩摩羅多尊者 二十祖闍夜多尊者 二十一祖婆修盤頭尊者 二十二祖摩訶羅尊者 二十三祖鵝勒那尊者 二十四祖師子尊者 二十五祖婆舍斯多尊者 二十六祖不如密多尊者 二十七祖般若多羅尊者 二十八祖菩提達磨尊者</p>
	<p>東土祖師 初祖菩提達磨大師 二祖慧可大師 三祖僧粲鑑智禪師 四祖道信大醫禪師 五祖弘忍及天滿禪師 六祖慧能大覺禪師</p>

一 新宮城書藏目錄

江戸末期写 一〇冊

(国立国会
図書館蔵)

二 丹鶴叢書 四三種

水野忠央編

江戸末期版 一五八冊
の内

一冊 二

第一二―二四冊 春記(藤原資房記)

(参考) 春記長曆二―四、長久二
東寺本

平安期写 八卷

特 一〇

三 馬内侍集 抄出本

江戸末期模写 一卷

四冊 三

四 藤原為世応制和歌等十二種

安政四年模写 一卷

四冊 六

1 秋日侍宴同詠禁庭萩三首和歌(藤原為世詠)

2 夏日於平等院即事詩(師賢作)

3 詠寄松祝和歌(円位詠)

4 受得法具注文永承三・一〇・一五

5 夏日同賦佳客对泉石各分一字詩探得遊字(大江匡範作)

6 日本書紀卷十四奥書永和三・七

7 藤原範宗書状七月二日

(書写奥書)

安政四年六月九日奉 仰摹之

(山田)
源常典

8 大嘗会段錢送進狀永正元・七・二四

(書写奥書)

安政四年六月奉仰模之 盧

9 北条氏政書狀三月一四日
長尾新五郎宛

(書写奥書)

安政四年六月九日承仰模之 源常典

10 慈鎮筆法文範宗卿筆跡裏書

11 光嚴院宸筆御書狀一〇月一七日
(双鉤)

(書写奥書)

安政四年六月九日奉 仰謹摹記 源常典

12 法眼某奉書建武元・三・二〇
中納言得業御坊宛

(書写奥書)

安政四年六月九日奉 仰模之 常典

五 和歌講式弘安一〇
稿本

江戸末期模写

一卷

四〇三番

六 真淵亭梅花文并長歌短歌 宝曆二

加藤宇万伎等著 江戸末期写 一巻 四三三

七 万葉集瑞桜根之靈 本居宣長注 帆足長秋編 江戸末期写 二冊 四三六

八 本朝神仙伝弘法大師一日巖(前欠) 大江匡房撰 江戸末期模写 一巻 四三三

(本奥書)

正応六年七月八日、以東大寺戒壇院長老「示觀房凝然之本書写之了、為知弘法大師之靈矢、剩尽諸人神仙之希特了」執筆明真六十二

(参考) 本朝神仙伝統群書類從一九三 (類從本原本) 一冊 四三二

(本奥書)

応安元年六月廿七日、以遍智院二品親王「御本書写、僧正弘賢持參之本也、余伝記略」之、抄出之「權律師深誉」

右本朝神仙伝拔萃一卷、以醍醐水本報恩院本写之「延宝九年辛酉冬十月

九 宝物集上(一卷本) 平康頼撰 江戸末期模写 一巻 四三二

(参考) 宝物集 伝平康頼自筆 二巻 四三六

一〇 御笠山春夏鹿鳴怪異日記承暦四一寿永三附 中臣氏先祖次第 江戸末期模写 一巻 四三三

二 摹古絵巻

江戸末期模写(彩色)

八九卷
の内

B 二 益

四

1 秀郷草紙一名俵藤太絵巻

三卷

2 年中行事絵巻

一四卷

3 当時年中行事

一卷

(奥書)

春松源千古筆(方朱印)「画院生徒」(方朱印)「源千古」

4 紫式部日記久松家本

一卷

(参考) 紫式部日記画巻丹鶴叢書第一三〇

江戸末期版

一冊

一〇四 二

一三 大宅朝臣可是麻呂等奴婢貢進解文東南院文書
第五櫃四、七—九卷

江戸末期模写

一卷

四〇五 二七

1 大宅朝臣可是麻呂貢賤解案天平勝宝元・一一・一三三

2 近江国司解天平一八・七・一一

3 文伊美吉広河進賤解案天平勝宝元・一〇・一一

4 大宅朝臣可是麻呂奴婢見来帳天平勝宝二・九・一四

- 5 大宅朝臣可是麻呂婢見來帳天平勝宝二・一〇・四
- 6 逃亡婢進上文天平勝宝二・五・二六
- 7 大宅朝臣可是麻呂賈賤解案天平勝宝元・一一・三
- 8 同 右 天平勝宝一・五・一七
- 9 山背国司移案天平一三・六・二六
- 10 右京職移案天平一三・閏三・七
- 11 摂津職移天平一五・九・一
- 二三 但馬丹後国司奴婢賈進解文東南院文書 第四櫃附録第九卷 江戸末期模写 一卷
- 1 但馬国司解天平勝宝一・正・八
- 2 丹後国司解天平勝宝元・一二・一九
- 3 奴婢賈進印書送文天平勝宝二・五・九
- 一四 備後国太田庄關係文書元仁一応永 高野山文書 宝簡集六 江戸末期模写(双鉤) 一卷
- 1 東寺長者法務道順書状元応二・九・二四

- 2 六波羅下知狀元徳二・四・二三
- 3 関東下知狀元徳三・四・七
- 4 北条義時請文(元仁元)三・二六
- 5 將軍足利尊氏安堵御教書觀応二・四・二五
- 6 室町將軍家御教書永和四・三・二二
- 7 同 右 永和四・三・二二
- 8 同 右 永和四・七・一〇
- 9 同 右 永和四・八・二五
- 10 足利義滿安堵御教書応永二・一一・二二
- 11 山名時義書狀(年未詳)七・一七
- 12 備後国尾道浦守護縫殿頭貞重書狀(元応二)・一〇・二三
- 13 備後国宣(年未詳)一一・二六
- 14 東寺長者御教書(元弘三)八・一六
- 15 太田庄領家地頭職施行狀(年未詳)一〇・二八

- 16 後醍醐天皇綸旨（元弘三）八・四
- 17 関東御教書（年未詳）七・七
- 18 東寺長者御教書（年未詳）五・二五
- 一五 備後国太田庄文書建久一応安
高野山文書 宝簡集八 江戸末期模写（双鉤） 一卷 四三二一
- 1 僧鏝阿置文建久元・六
- 2 熊野山政所下文正治二・五
- 3 熊野山別当湛増請文（正治二カ）・六・三〇
- 4 今川了俊書状（応安六）閏一〇・三
- 5 今川了俊被官頼泰書状（応安六）閏一〇・二二
- 6 左衛門尉重秀書状（年未詳）八・二一
- 7 関東御教書元久一・閏七・一一
- 8 太田庄地頭名所当未進注文宝治元・八
- 9 太田庄証文返納目錄弘安九・四・一四
- 10 太田庄本証文返納目錄弘安九・四

11 布志名宗清書狀（年未詳）七・一七

12 太田庄文書申出目錄弘安一〇・六・二一

13 太田庄嘉応檢注目録正安二・六・二九

14 太田庄桑原方領家地頭所務和与狀正安三・六・二二

15 東寺長者御教書建長元・一一・二六

16 雜掌頼寿太田庄文書請取狀正和五・八・二七

17 雜掌隆信文書請取狀延慶二・五・六

18 雜掌經寿太田庄文書請取狀正和五・閏一〇・一五

一六 僧饒阿天野宮八講米寄進狀和勝元・六・二五
高野山文書 宝簡集一八の内

一七 法隆寺伽藍縁起并流記資財牒 天平一九

（参考）法隆寺縁起資財帳続群書類従
七九八

（類従本原本）

江戸末期模写

江戸末期模写

一通 四〇五
一卷 四〇五
一冊 四〇三
二

（本奥書）

法隆寺伽藍縁起及流記資財上、寛政一七年歳次丁卯仲夏伝写、原本一仏刹

藏本也、下卷逸可惜「貞幹

法隆寺流記實財帳本寺隻字不伝、今「年於法林寺開龜、一友人新写寄附本」

寺亥八月廿六日納 無仏幹

一八 法隆寺文書

江戸末期模写

一卷

四三三
三六

- 1 大法師慶秀等畠地流質文康曆元・一〇・一七
- 2 僧重祐田地売券永和四・一一・二二
- 3 尼了春作主職売券永和四・一二・一三
- 4 五郎作主職売券康曆元・一二・一三
- 5 権大僧都某宮中後七日御修法請文文保二・正・七
- 6 入道丸等諷誦文天文一六・正・一七
- 7 英賀大法師等諷誦文天文一六・正・一七
- 8 鶴御前田地売券文永九・四・八
- 9 金福太郎田地売券貞治五・一二・一六
(裏書あり)
- 10 僧弁海田地売券至徳三・一二・二九
- 11 清祐等護摩堂御影供衆忌日料足契状応永一七・一二

一九 鷹司伊頼遺誠 弘長二・四

原本 一卷

三三三

(奥端書)

大納言伊頼卿之筆歟

二〇 水野家雜文書 室町—江戸期

原本写本 一卷

三三三

1 二条光平申状写 三・一九
左少舟宛

2 藤原生枝申状写 慶長六・三・一九

3 中原重利申状写 慶長六・三・一九

4 藤原吉英申状写 慶長六・三・一九

5 藤原久望申状写 慶長六・三・一九

6 油小路隆典書状 元文五・八・二八
尊乘女王光照院入寺事

7 某仮名消息写

8 某書状案

9 某仮名消息写

10 某書状朝宮宛

- 11 久世通夏書狀左兵衛宛
- 12 園基福・東園基賢連署誓紙案寛文九・四・二二
- 13 梅小路共方・堀河康綱連署書狀
- 14 梅小路共方書狀
- 15 後藤源左衛門尉書狀中井大和守宛
- 16 某家集斷簡
- 17 慈鎮十九首和歌(室町末期写)
- 18 為家十首和歌(室町末期写)
- 19 弁官補任斷簡平実親・藤原宗成
- 20 中宮職官位次第藤原聖子
- 21 後水尾院宸筆下賜目錄案
- 22 清閑寺共綱和歌詠草留六首
- 23 某社諸殿之覺
- 24 難字音義之留

25 不知記断簡

26 二十首歌題之留

27 不知記断簡天和元・正・二・二一九

28 勅撰集一覽

29 古今集難語註

三 五燈会元 卷八、九欠

三 論語 一〇卷

三 白氏文集 七一卷

(第一冊、卷四末)

弘安五年実秀本奥書および寛永元年西山期遠子貞子元諸識語あり

(第八冊、卷三三末)
他本跋文―会昌四年―建長四年―あり

宋 釈普濟編

南宋版

一八冊

異 二異

魏 何晏集解

慶長木活

二冊

異 二異

唐白居易撰
那波道門校

元和四木活(補写加筆)

一九冊

異 三

三 山谷詩集註 二〇卷

(第十二冊卷末附札)

自永享三年菊月廿八日至同十月三日「泉界大安寺於南軒点之、土安

宋 黄庭堅撰
任淵註

覆宋室町版

一三冊

異 一異

- | | | | | | | | |
|---|-------|---------------------|-------|--------------|-------|-----|------------|
| 三 | 草韻弁体 | 五卷 | 明 郭謹編 | 明 崇禎六版(二色套印) | 五冊 | 彙 三 | |
| 三 | 柳庵隨筆 | 別本
稿本 | | 栗原信允著 | 自筆 | 二冊 | 彙 一
五 六 |
| 二 | 静幽堂叢書 | 目錄共
(有欠) | | 鍋田三善編 | 江戸末期写 | 五冊 | 一三
二〇 |
| 二 | たまり水 | | | 小野守房(湛齋)著 | 江戸末期写 | 五冊 | 二〇
元 |
| 元 | 霜傑亭叢書 | 四〇卷
(第一九欠)
稿本 | | 越智直澄編 | 原 本 | 五冊 | 二〇
元 |

水野忠央略年譜

閏5・8 紀伊齊順歿、清水齊彊養子相続。

(嘉永元)
同五年(一八四八) 三五歳

文化二年(一八二四) 一歳

誕生。紀伊藩附家老新宮城主水野家十代。

2・5 前年輯刻の「丹鶴叢書」一一冊(丁未帙)を將軍家慶に献す。

幼名鍵吉、通称藤四郎。

10・6 父忠啓歿。

同一三(一八一六) 三歳

嘉永二年(一八四九) 三六歳

10・1 將軍家齊に初目見。

3・27 紀伊齊彊歿し、慶福相続す。

12・16 諸大夫に任じ、土佐守を称す。

4・1 前年輯刻の「丹鶴叢書」三九冊(戊申帙)を献す。

天保六年(一八三五) 一一二歳

閏4・2 紀伊慶福の養育並びに後見を仰付

8・16 父対馬守忠啓隠居により家督相続。

ける。

同一一年(一八四〇) 一二七歳

4・12 老中水野忠邦より紀伊齊順在国中の

是年丹鶴外書「大系図画引便覧」刊す。

江戸家政向万端取扱を命ぜらる。

同三年(一八五〇) 三七歳

弘化三年(一八四六) 三三歳

7・21 前年輯刻の「丹鶴叢書」二四冊(己酉帙)を献す。

2・26 老中阿部正弘より紀伊齊順所劳中方

端引請世話を命ぜらる。

12・29 嫡子忠幹と水野忠邦女との縁組許可

さる。

相謀って紀伊慶福を將軍に擁立す。

是年「丹鶴叢書」二七冊（庚戌帙）並びに

7・28 水戸家取締を命ぜらる。

「千とせのためし」刊す。

是年用人飯田恒徴をして北海道を踏査せしむ。

同四年（一八五一） 三八歳

む。

2・16 水野忠邦前日蟄居を免ぜられ、是日

万延元年（一八六〇） 四七歳

歿す。

3・3 大老井伊直弼暗殺さる。

是年「丹鶴叢書」二〇冊（辛亥帙）刊す。

6・4 新宮表へ慎隠居を仰付けらる。

同五年（一八五二） 三九歳

元治元年（一八六四） 五一歳

12・7 紀伊治宝歿す。忠央藩政改革を始む。

5・4 慎隠居を免ぜらる。

是年「丹鶴叢書」二〇冊（壬子帙）刊す。

8・4 鶴峯と改名す。

是年忠央の妹雪江將軍家慶の子を生む。

同二年（一八六五） 五二歳

同六年（一八五三） 四〇歳

2・25 新宮にて歿し、新宮本広寺に葬さる。

6・22 將軍家慶歿し、家定相続す。

是年「丹鶴叢書」一三冊（癸丑帙）刊す。

安政五年（一八五八） 四五歳

7・4 將軍家定歿す。忠央大老井伊直弼と

